

# 我が国におけるラクロスの教育的価値に関する一考察

## A study on the educational value of Lacrosse in Japan

1K06A249

指導教員 主査 友添秀則先生

山岡大祐

副査 杉山千鶴先生

### 【本研究の動機・目的】

今まで私は、水泳、サッカー、卓球、野球、テニス、バレーボール、そしてラクロスと多種多様なスポーツを経験してきた人生だったが、ラクロスが最も自分を変え、成長させた。私の人生において、ラクロスは間違いなく教育的な役割を果たしたといえる。私の人格を形成することに大きく影響を与えたラクロスについて文献研究という側面からよく見つめてみたい。そして、私の知らなかったラクロスの一面を発見、整理し、教育的価値という観点について自身の見解を深めたい。

本研究では、ラクロスの起源から変遷、そして現状をまず論じる。バックグラウンド、特徴を踏まえたうえで、ラクロスというスポーツそのもの、さらにはラクロスを取り巻く外部要因にはどのような価値が内包されているのかについて考察していきたい。そしてこれらを一般化、整理し、普及に関する考察を行うことが本研究の目的である。

### 【研究の方法】

本研究は関連する文献を講読し、必要に応じでは、海外文献もその対象としながら行う。ただし、ラクロスについての文献の絶対数が圧倒的に少ないため、情報量が少ないところに限っては、インターネット上の情報を吟味し、信用のおけるものを参考にしていく。

### 【各章の概要】

#### 第1章 ラクロスの起源、変遷および特徴

1636年、ジャン・ドゥ・ブレブフによりラクロスは発見された。宗教的な側面を持ち合わせていたラクロスは、アメリカやカナダなどに広まり、1867年ごろからW・ジョージ・ピヤーズらによって徐々にルール等の環境も整備され、近代スポーツとして変遷していく。

また、日本におけるラクロスの始まりは、1986年のことである。その後、日本ラクロス協会の発足を機会に雑誌等に取り上げられ、認知度や競技人口も徐々に増加し、競技として確立されてきた。

このような変遷を遂げ、現在は、努力次第で日本代表や、所属チームの日本一という目標もかなり身近なところにあるという理解がされるようになる。また、競技特性における特徴については、クロスとボールの存在、スピードあふれる試合展開、高い戦術性が求められることが挙げられる。

#### 第2章 ラクロスに内在する諸価値

ラクロスを通じた身体形成、精神的陶冶、他種目の関連技能取得の3要素に分け、ラクロスを通じた価値について論じた。ラクロスは種目を超えた能力の転移というものが生じる可能性が高いという観点で考察していく。

#### 第3章 ラクロスの普及と課題

ラクロスがどんなに価値を含んでいても、どんなに必要性があっても、マイナースポーツである以上、普及という課題に直面せざるを得ない。これに関しては、「体験してもらう場の適切

な設定」の必要性について述べていく。

## 結章

1～3章で述べてきたことをふまえ、多種多様な価値を含むラクロスが、普及へとつながるための手段を提言していく。